

フォーエバー現代美術館 祇園・京都のご案内

これまで秋田市で10年以上活動を行ってまいりましたフォーエバー現代美術館は、2017年6月10日から、京都市東山区祇園町の祇園甲部歌舞練場内の八坂倶楽部で、フォーエバー現代美術館 祇園・京都としてオープンしております。

■ 施設概要：

建物： 祇園甲部歌舞練場敷地内 八坂倶楽部
大正2年建築 和風木造 2階建て
八坂倶楽部（約600㎡）、八坂ホール（約600㎡）、日本庭園（約2700㎡）
展示室： 第1展示室～第4展示室
庭園ギャラリー（京唐紙と日本庭園の鑑賞空間）
カフェ： Museum Cafe （約100席。京野菜とサンドイッチ、スイーツ、飲み物の提供）
ショップ： Museum Shop FMOCA （約160アイテムの草間彌生グッズなどの販売）

■ 美術館概要：

フォーエバー現代美術館 祇園・京都は、祇園甲部歌舞会様の格別のおはからいにより、都をどりの会場として知られる祇園甲部歌舞練場内の、大正2年に建てられた築100年以上の伝統的日本建築の有形文化財「八坂倶楽部」をお借りして、現代美術館を運営することになりました。

祇園甲部歌舞練場という伝統文化の殿堂エリアで現代美術館を運営することで、当館は、伝統と現代が融合した生きた伝統文化の発信を目指します。そもそも日本文化は、自らの伝統文化に積極的に外来の革新的な要素を取り入れて発展してきたものと言われています。当館のこの試みが、これからの新しい日本文化の発展のために、微力ながらも寄与できれば幸いと考えております。

こうしたコンセプトのもと、当館では日本の伝統をベースとした、新しい現代美術作品の展示及び鑑賞スタイルを提案しております。それは畳敷きの空間と、畳に座って鑑賞できる日本的な鑑賞スタイルです。

日本建築では、部屋の間仕切りの殆どが障子や襖で構成されているため、美術品は床の間に展示し、襖そのものに障壁画として絵を描く事が様式になっていました。当館では、本来障壁画が描かれる襖を、現代美術の展示が可能な展示壁として整備しました。各展示室の展示壁の壁色には、浅葱色、弁柄色、聚楽壁などそれぞれ異なる色が使われております。それらの色は、祇園町を含む京都の花街などで使われてきた壁色であり、美術館が立地する場所との歴史的な関係性を重視しております。

もう一つの特徴は、総畳敷きの展示室です。それにより日本の伝統的な建築空間を特徴づける畳の美しさを表現するとともに、鑑賞者が畳に座り、作品を鑑賞していただけるようにしています。そのため作品も、一般的な現代美術館での展示より少し低めに展示されています。

立った姿勢で作品を鑑賞することが西洋美術にルーツを持つ現代美術作品の展示では一般ですが、こうした日本独自の美術鑑賞スタイルを引き継いだ鑑賞スタイルを提案することで、鑑賞者と現代アート作品との間に新しい係わり方が生まれるのではないかと考えております。

また、「庭園ギャラリー」と名付けた日本庭園に面した第3展示室の広縁の壁には、京唐紙をしつらえました。木版画で制作された京唐紙は、それ自体が美術作品と呼べるものです。モチーフは、目の前に展開する日本庭園を構成する池と松の2つの要素からとられています。江戸期から続く自然をモチーフとした伝統美術と、庭園の自然を対比して楽しめる空間になっています。ギャラリーに置かれた座布団は、実際に禅宗の寺の座禅教室で使用される座布団セットを取り入れております。

■ コレクション

フォーエバー現代美術館は、これまで 30 年以上の歳月をかけて、700 点近くの美術品を収集してきました。そのコレクションの内、6 割近くを草間彌生氏の作品が占めます。フォーエバー現代美術館の草間彌生作品コレクションは、そのコレクション自体で作家の作品世界を概観できることを目指し、作家の協力のもとで、初期から近作までの作品を 1990 年代に集中して収集してきました。1990 年代にフジテレビギャラリーで開催された作家の代表的な新作を発表した個展、1991 年の「天と地の間」展では「私の魂を乗せてゆくボート」(1989 年) を、1994 年の「我ひとり逝く」展では「我ひとり逝く」(1994 年) を収蔵し、1994 年に開催された長野県信濃美術館での個展出展作からは、その代表出展作品の「黄樹」(1992 年) を収蔵しました。それらはいずれも草間彌生の 1990 年代の重要な代表作であり、テートモダン美術館など国内外の主要美術館にも貸し出されております。このほか、「光は地の果てから」(1950 年) や「Infinity Nets」(1963 年) など初期の作品群も収蔵しています。

こうしたオリジナル作品群に加え、フォーエバー現代美術館草間彌生コレクションの特徴としては、草間彌生が制作した全 372 点の版画作品（「愛はとこしえ」を除く）のおよそ 95%にあたる 352 点を収蔵していることです。これら版画作品により、作家の 1979 年から 2016 年までの制作活動を概観することもできます。草間彌生作品コレクション以外では、ヨーゼフ・ボイス、アンゼリム・キーファー、リチャード・ロング、宮島達男、大岩オスカル幸男など国内外の現代美術作品が収蔵されています。